文法の教え方

Unit 1 準備 Part 2 文法指導を見直す

国際交流基金
JAPANFOUNDATION 日本語国際センター

はじめに

皆さんは、文法を教える時間に、主に何をしていますか。おそらく文法の説明をしたり、ドリル練習等をしているのではないでしょうか。ここではちょっと立ち止まって、今の指導はコミュニケーションにつながる文法指導といえるのか次の2点から文法指導を見直(みなお)します。

1.文法の説明について

2.文法の練習について

キーワード：文法説明の限界、インプット理解の練習、アウトプット練習、ドリル練習、タスク練習

1. 文法説明の見直し

【タスク1】

皆さんは、難しい文法説明をしても学習者(がくしゅうしゃ)がわからなかった経験はありませんか。

それはどんな文法項目(こうもく)でしたか？

例）「～はずだ」を説明しても、いつ使うのか理解してくれなかった

© 2023 The Japan Foundation

先行研究では、文法説明は、やさしい文法なら、教えた直後は覚えているが、長い時間がたつと忘れてしまうと言われています。また、難しい文法を説明しても、学習者を混乱させるだけで、あまり効果がないとも言われています。つまり、ことばによる文法説明には、限界があるということです。

そこで、文法説明について、次のように指導を見直します。

●文法指導の中で、文法の説明にかけている時間を減らす。特に、母語でも日本語でも、学習者にとって理解することが難しい文法を教えるときは、その説明に時間をかけない。

●言葉による説明だけで行わずに、図や絵など他の方法も取り入れる。

2. 練習の見直し①

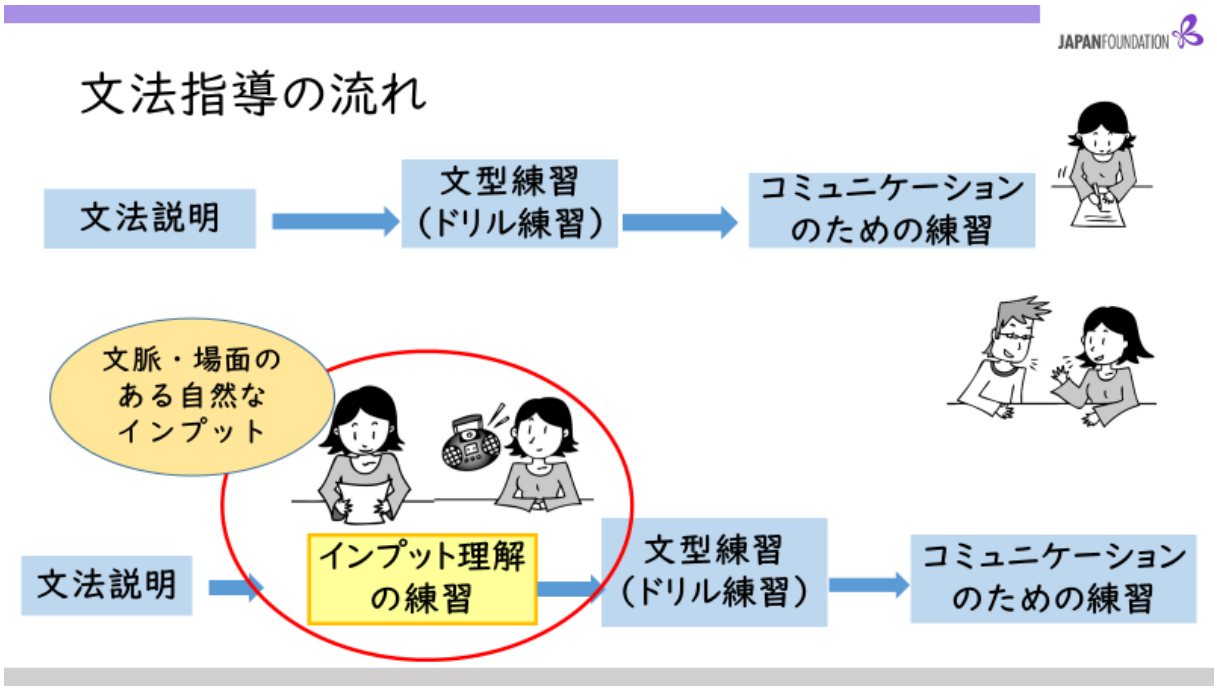
【タスク2】

皆さんは、文法説明のあとに、どのような活動をしていますか？

具体的によく行っている練習はどんな練習ですか？

例）学習した文法を使って例文を作らせている

© 2023 The Japan Foundation



文法を中心にした教科書を使って教えている授業では、大まかに言って、文法説明、文型練習（ドリル練習）、コミュニケーションのための練習という文法指導の流れが多く見られます。

しかし、近年の研究で必要とされている練習があります。それはインプット理解の練習です。インプット理解の練習とは学習項目の文法が使われている文章を読んだり、会話を聞いたりする練習です。学習者が文脈や場面のある自然なインプットの中で学習項目に気づき、その意味をよく考えて理解する練習です。

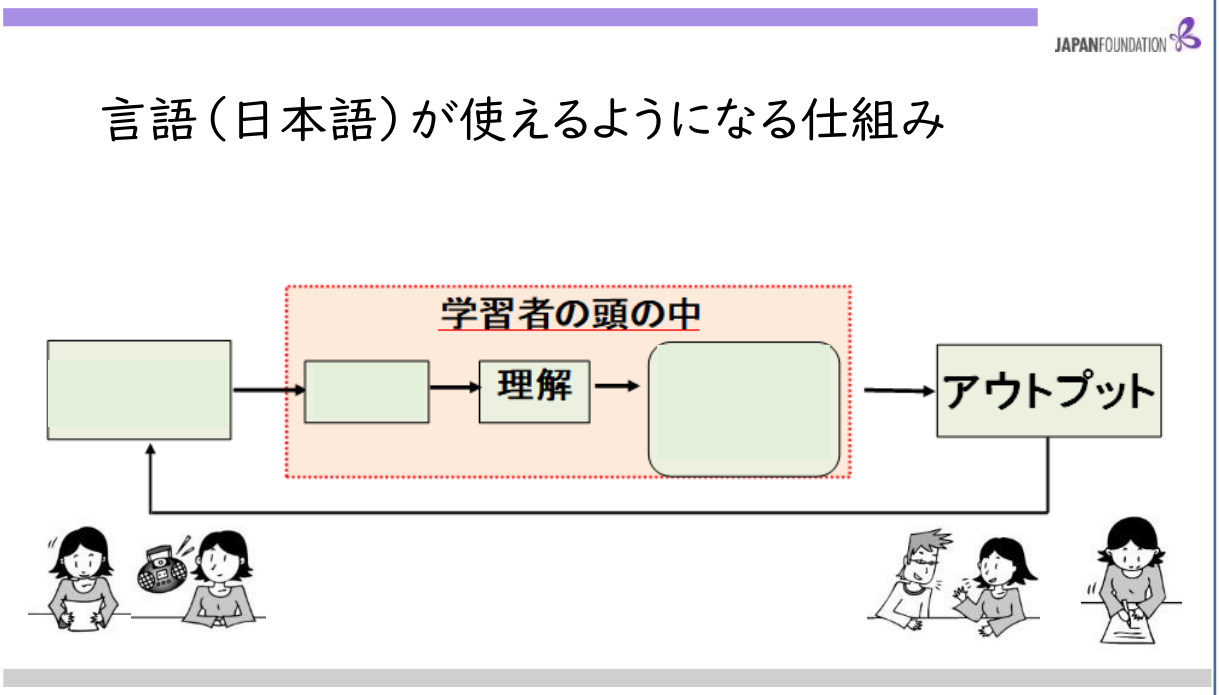
では、なぜ、このような練習が必要なのでしょうか。学習者が実際に言語を使えるようになる仕組みを見てみましょう。

© 2023 The Japan Foundation

【タスク3】

次の図は日本語が使えるようになっていく仕組みを表しています。

下の a～d の中から□に適切な言葉を選んでください。



a.自分なりの言語的なルール　b.インプット　c.気づき

上の図はインプットから始まり、話したり書いたりするといったアウトプットまでを表しています。インプットからアウトプットまでの間、学習者の頭の中では「あれ？初めて聞く新しい形だなあ。」とか、「あ、言葉の最後が同じ形になっているのかもしれない」など、「あれ？」と思ったことに注意が向けられます。そして、気づいて理解したインプットだけが、学習者の「自分なりの言語的なルール」になります。

このように、学習者が日本語を学び、使えるようになるメカニズムの図を見ると、インプットからアウトプットまでの間には、文法や表現などの言語的特徴に気づいて、そして理解して、

© 2023 The Japan Foundation

自分のものとするというプロセスがあることがわかります。

そこで、文法説明の後に行う練習について、次のように指導を見直します。

●文法説明のすぐあとに、テキストを聞いたり読んだりして、意味を考える練習、すなわち、インプット理解の練習をする。

●インプット理解の練習をするときに、教師は学習者が意味を適切に理解しているかどうかを確認(かくにん)する。

3. 練習の見直し②

【タスク4】

皆さんは文法授業の中で、どのような練習をしていますか。文法項目を一つ思いうかべて、どのような練習をしているか、考えてみましょう。

例1：文法項目：～たら：「 _____たら、_____ 。」という文をたくさん作る

例2：文法項目：～てある ：パーティーの準備の絵を見せて、学習者に「何がしてありますか？」と聞く。学習者は絵を見て、「～してあります。」の形で答える。

© 2023 The Japan Foundation

学習者が学習した文法項目を使って、話したり書いたりする練習をアウトプット練習といいます。アウトプット練習にはドリル練習とコミュニケーションのための練習であるタスク練習があります。

ドリル練習・・・正確さのための練習。正しい形で語や文をたくさん作る。

タスク練習…実際の場面に近い状況で、与えられた課題や目的を達成する練習。課題や目的を達成する途中で、学習した文型の意味／機能や使い方を試すことができる。

【タスク5】

次はドリル練習の例です。これらのドリル練習は何のために行われているでしょう。

例１：【代入(たいにゅう)練習】
問．＿＿＿＿＿たほうがいいです。
①食べる　②散歩する　③働く

例２：【変形(へんけい)練習】
問．①春になります、桜が咲(さ)きます→春になると、桜が咲きます。
②食べます、眠くなります→ 食べると、眠くなります。

ドリル練習は正しい形を覚えたり発音の練習になったりします。ただ、どちらも使い方や意味／機能がわからなくても、言葉を入れ替(か)えればできてしまうようなドリル練習です。文脈や場面もなく、学習者がその文法を使って話す目的もありません。ですからこのような練習はコミュニケーションの練習にはなりません。

一方、ロールプレイに代表されるタスク練習は、実際の場面に近い状況で、相手との自然なコミュニケーション活動を通して、与えられた課題や目的を達成する練習です。自然なコミ

© 2023 The Japan Foundation

ュニケーションを通して、学習した文型がどのように使われるのか確認できるため、コミュニケーションにつながる練習と言えます。（＊詳しくは Unit2 の Part3 のアウトプット練習で紹介します。）

では、アウトプット練習についてまとめてみましょう。練習の種類によって目的や特徴は異なります。

●ドリル練習・・・正しい形や音声を身に着けるときに役立つ。コミュニケーションの練習にはならない

●タスク練習・・・自然なコミュニケーションを通して学習した文型がどのように使われるのか確認できる。コミュニケーションにつながる練習といえる。

コミュニケーションにつながる文法指導を目指すのであれば、タスク練習を行ったほうがいいでしょう。

【タスク 6】

皆さんは、「文法説明」「インプット理解の練習」「ドリル練習」「タスク練習」の4つの活動のうち、どれに多く時間をかけていますか？ 文法の時間を 100 とした場合、それぞれ何パーセントぐらいの時間の配分（はいぶん）だったか、考えてみましょう。

文法説明：（　　）％　　インプット理解の練習（　　）％

ドリル練習：（　　）％　　タスク練習（　　）％

© 2023 The Japan Foundation

3. まとめ

このパートではコミュニケーションにつながる文法指導を目指して、次の 3 点を確認しました。

1.《文法説明》 文法説明には限界がある。難しい文法でも、詳しく説明すればいいというわけではない。

2.《文法の説明の後に行う練習》 文法の説明の後に行う練習は「インプット理解の練習」を入れた方がよい。インプット理解の練習とは、新しい文法項目を含んだ文を聞いたり読んだりして、その項目に気づき、意味をよく考えて理解するための練習。

3.《アウトプット練習》アウトプット練習とは、学習者が学習した文法項目を使って、話したり書いたりする練習。ドリル練習とタスク練習がある。ドリル練習は正しい形を覚えたり、発音の練習になるが、コミュニケーションの練習にはならない。一方、タスク練習は自然なコミュニケーションを通して、学習した文型がどのように使われるのか確認できるためコミュニケーションにつながる練習といえる。

コミュニケーションにつながる文法指導のために、ぜひこれらのポイントを覚(おぼ)えておいてください。

■ このパートの参考文献(さんこうぶんけん)と参考サイト

- 大関浩美（2010）『日本語を教えるための第二言語習得論入門』くろしお出版
- 国際交流基金（2010）『文法を教える』（国際交流基金 日本語教授法シリーズ 4）ひつじ書房
- 小柳かおる(2004)「教室第二言語習得と英語教育」『英語教育』53-6

© 2023 The Japan Foundation

■　タスクの答え

【タスク 1】（答えなし）

【タスク2】（答えなし）

【タスク3】 b, c, a

【タスク4】（答えなし）

【タスク 5】例1：辞書形を「た形」にすること

例2：ます形を辞書形に変えて、「と」に続けること

【タスク6】（答えなし）

© 2023 The Japan Foundation